

一般口演

1. 夜間尿失禁に対する鍼灸治療と家庭内QOLの改善を認めた一症例

山元 大樹

鍼灸院ひなた

【目的（背景）】

夜間尿失禁（夜尿症）は高齢者のQOLを著しく低下させる症状であり、本人のみならず介護者の負担も大きい。西洋医学的な治療で改善が得られなかった症例に対して、鍼灸治療により症状改善と家庭環境の回復が得られたため報告する。

【症例】

X年11月、〇〇代男性が来院。X-2年頃より寝起き時の尿失禁が毎日続き、整形外科で腰椎ヘルニアの診断を受け手術も行ったが改善せず、薬物・漢方治療でも効果を得られなかった。介護を担う配偶者は毎朝のシーツ交換に強いストレスを感じ、夫婦仲にも影響していた。触診では下腹部の冷えと恥骨上部の硬さが顕著であった。

【結果（考察）】

治療は週2～3回、合計4回行い、陰谷、委陽、中髎に鍼を実施。初回で脚の冷えが改善、2回目で夜尿が消失し、3回目で安定化した。飲酒過多で一度再発があったが指導により再発防止を図った。症状の改善により夫婦関係も良好となり、家庭内の雰囲気も穏やかに変化した。鍼灸が身体症状のみならず人間関係・QOL全体に良い影響を及ぼす可能性があると考えられる。

【結語（結論）】

夜間尿失禁に対する鍼灸治療は、下腹部の冷えや骨盤部の硬さを整えることで症状改善が得られただけでなく、家庭内の関係性の回復にも寄与した。QOLの向上が人の豊かさに直結することを再確認する症例となった。

キーワード：夜間尿失禁、鍼灸、下腹部の冷え、家庭内QOL、骨盤部の硬さ

2. 緑内障に対する眼窩刺を用いた鍼灸治療の症例報告 ：視機能改善・眼圧下降を認めた一例

東 豪・武市 春栄

鍼灸専門 一齊堂

【背景】

緑内障は主要な失明原因である。本症例は、虹彩角膜内皮症候群（Iridocorneal Endothelial Syndrome, ICE）に伴う続発性緑内障に対し、眼窩刺を安全かつ効果的に施行して視機能の維持および眼圧の安定化を認めた一例を報告する。

【症例】

40 代男性。X-9 年、緑内障と診断され点眼治療を開始。当初より右眼圧高値で左右視野狭窄を認めた。X-5 年 12 月、眼圧 60mmHg を記録し ICE 症候群に伴う続発性緑内障と診断され、同年 12 月～X-4 年 3 月に複数回の手術を施行。術後も点眼継続下で眼圧は徐々に上昇し再手術を示唆された。X 年 12 月頃より視野狭窄の進行を自覚し鍼灸治療を併用した。鍼灸治療開始後、自覚的に視界が良好。週 2 回の治療時には、より検査数値に反映があった。現在、右眼矯正視力は 1.2 から 0.6 に低下したが、左眼は 1.2 を維持。眼圧は右眼が 21mmHg から 21～23mmHg と手術に至らない数値、左眼は 12～14mmHg で安定している。視野検査では、右眼の視神経乳頭陥凹拡大は進行するが、左眼は老化の範囲に留まる。

【考察】

稀な難治性緑内障に対する眼窩刺は、刺入に際して解剖学的知識に基づき眼球や主要血管・神経への損傷を避けるよう細心の注意を払うことで、有効かつ安全に実施可能であることを示した。また、自覚症状の改善に加え、複数回の手術後も不安定であった眼圧の安定化

（特に右眼の再手術回避）が認められた。単一例ではあるが、難治性緑内障に対する鍼灸の有効性、特に、眼窩刺の可能性を示唆すると考えられる。

キーワード：緑内障、眼窩刺

3. 高度生殖補助医療と鍼灸を併用し50歳代で出産に至った一症例

島田 りか¹⁾・佐野 敬夫²⁾

1) 北千束 鍼灸マッサージ治療サロンR

2) 朋佑会札幌産科婦人科

【目的】

近年、ARTを用いた不妊治療が、多くの不妊に悩む夫婦の助けとなっているが、先の見えない結果に不安を多く抱える患者様も多い。鍼灸の併用は肉体的・精神的ストレスの軽減につながる。今回の症例は、40歳代で、何年もの間、凍結胚移植を行い、不成功に終わった患者様が、凍結胚を残したまま、治療を休止、50歳代で治療を再開、出産に至った症例を発表する。

【症例】

X年2月、初診。年齢42歳 既往歴 胃潰瘍、腸閉塞、肺炎 X年-5ヶ月、ART病院を受診し、検査及び治療開始。その時点で子宮筋腫を指摘され、3か月後に子宮筋腫核摘出手術。鍼灸院初診前に、3回ISCIを行ったが、着床に至らなかった。ストレスの軽減や、妊娠しやすい身体作りを目的として当院を受診。2週間に一度、「肝脾不和」として鍼灸治療を始める。血液検査で甲状腺の値が高いことが指摘され、チラージンの服用開始。その後、ART病院を転院し、着床まで確認されるが、妊娠維持まで至らなかった。治療中に使用した薬剤により、薬剤性アレルギーが起き、その対処に不信感をもち、再転院。採卵と移植を繰り返したが、挙児にはつながらなかった。貯卵をしたのち、治療を休止、フルタイムで働き始める。X+10年3月、子宮内膜炎の検査を行い、陰性だったため、治療を再開。4月、貯卵してあった受精卵を使用して、移植。その後、血液検査で妊娠判定は+と出たが、5日後、成長が止まる。7月移植、着床、心拍確認。妊娠中は、「水湿滞留」として、36週まで鍼灸治療を行う。X+11年3月、帝王切開で、出産。

X+11年6月、育児疲れ改善を目的に鍼灸治療再開。

【結果】

不妊治療に合わせて鍼灸治療を併用した結果、挙児に至った。

【結語】

鍼灸治療が生殖治療の手助けとなる他、患者様の生活のストレスを傾聴しながら治療を行い、信頼関係を築き、長期にわたって体の状態を改善していったことが、50歳代になってからの移植が挙児までつながったと考えられる。

キーワード：不妊治療 50歳代 出産 鍼灸治療 高度生殖補助医療

4. 変形性膝関節症に対し、当帰四逆加呉茱萸生姜湯と五苓散の併用が有効であった2例

森本 理芽子¹⁾・長瀬 眞彦^{2) 3)}

1) 練馬光が丘病院 整形外科

2) 吉祥寺中医クリニック

3) 順天堂大学医学部 医学教育研究室

【緒言】

中高年の変形性膝関節症では、冷え症を認め、さらに低気圧や湿度の上昇で疼痛が増悪すると訴える者が少なくない。今回、当帰四逆加呉茱萸生姜湯と五苓散の併用で膝関節痛が改善した2症例を経験したので報告する。

【症例1】60代女性。 主訴：両膝関節痛。

経過：X年6月両変形性膝関節症の診断で、初診時よりヒアルロン酸関節腔内注射を開始し、隔週で継続していた。NRS: 4/10と症状は軽快していたが、X+1年5月両足関節より遠位の冷えの訴えがあり、当帰四逆加呉茱萸生姜湯を開始した。冷えの改善とともに両膝関節痛の軽減を認めていたが、NRS: 3/10と疼痛は若干残存していた。X+2年4月天気の悪化時による疼痛の増悪の訴えがあり、五苓散を併用したところ、NRS: 1/10と著明な改善を認めた。

【症例2】70代女性。 主訴：両膝関節痛。

経過：X年3月両変形性膝関節症の診断で、初診時よりヒアルロン酸関節腔内注射を開始し、月1回で継続していた。経過中、両膝関節より遠位の冷えの訴えがあり、X+5年9月当帰四逆加呉茱萸生姜湯を開始。冷えの改善とともに両膝関節痛が軽減していたが、NRS: 5/10と疼痛の残存を認めていた。X+6年2月天気の悪化時による疼痛の増悪の訴えがあり、五苓散を併用したところ、NRS: 1/10と著明な改善を認めた。

【考察ならびに結語】

2症例とも、冷え症と同時に寒冷ならびに天気の悪化による症状の増悪を認め、さらに足が攣りやすく、寒湿痺、水毒ならびに血虚を認めた。中高年ではこの様にいくつかの証を併せ持つ者が少なくない。温裏剤である当帰四逆加呉茱萸生姜湯で寒邪の影響を受けた血虚、すなわち血虚寒凝証を改善し、また利尿剤である五苓散を併用して水毒を改善することによって、膝関節痛の軽減が可能であった。

5. 便秘型過敏性腸症候群と診断されていた 40年来の慢性便秘症に対し、理気薬を中心に加療した症例

安藤 奈々子¹⁾・田中 耕一郎²⁾・奈良 和彦²⁾

1) 伊勢原協同病院 産婦人科

2) 東邦大学医療センター大森病院 東洋医学科

【背景】

便秘型過敏性腸症候群に対し西洋医学的な加療が行われていたが著効せず、中医学的なアプローチを併用し症状が改善した症例を報告する。

【症例】

70代男性、既往に双極性障害があり、精神科で加療されている。X-2年11月に便秘で下剤が効かなくなったことを主訴に当院総合内科を初診となり、様々な薬物加療を行ったが著効なく、漢方薬での加療を希望されX年10月に当科初診となった。初診時の問診では、塩類下剤をベースに、3日に1回刺激性下剤を使って10回以上かけて便を無理に出している、便秘でおなかがはっていると気分も沈んでしまうと訴えていた。東洋医学的身体所見では、脈は両側弦滑で、舌は紅色、黄膩苔であった。弁証は肝鬱気滯、論治は理気導滯とした。30年ほど前に中医師により処方されたものがよく効いたことがあるので同じものを処方してほしいとの希望があり、香附子、陳皮、生姜、茯苓、木香、厚朴、烏薬、枳殻、甘草を煎じ薬にて処方した。第一診では、便通は変わらないが漢方薬を内服して体全体が楽になった、第二診では、便通がよくなったと症状の改善がみられた。

【考察】

過敏性腸症候群は、ストレスや不安など心理社会的要因が発症や症状の増悪に関与するとされている。中医学による便秘の分類では、肝の疏泄機能が失調するなどの原因によって気の運行が滞って生じた便秘を気秘という。今回の症例は肝鬱気滯が主病態の気秘と考えられた。瀉下薬は用いず理気薬を中心に処方し、便通の改善をえた。

【結語】

難治性の慢性便秘症に対し理気薬を中心とした処方で効果を得られた症例を経験した。便秘症患者に対しては、病態を踏まえ、瀉下作用を有する生薬を含まない処方を選択することが有効な治療選択肢となる場合もある。

キーワード：慢性便秘症、便秘型過敏性腸症候群

6. 入眠障害・中途覚醒に対して女神散の追加処方が有効であった症例

山縣 文・奈良 和彦・田中 耕一郎

東邦大学医療センター大森病院東洋医学科

【症例】

主訴：倦怠感、不眠、体重増加

現病歴：40代、女性。X-1年2月に甲状腺腫瘍に気づき、近医を受診。その後、当院における精査の結果、橋本病を基礎とした無痛性甲状腺腫と診断されレボチロキシンの内服を開始した。X-1年5月には euthyroid となり経過観察中。その後、X-1年9月頃から眠れなくなり、入眠できても2,3時間で起きてしまうよう、倦怠感が強くて家事がままならない等の症状があり、X年3月当科受診。

既往歴：甲状腺機能低下症、子宮腺筋症、自然流産2回（4妊2産）、鉄欠乏性貧血、不眠症

常用薬：レボチロキシンの内服、クエン酸第二鉄、ジェノゲスト、ゾルピデム、加味逍遙散

- ・自覚症状：倦怠感、不眠、体重増加、手指のこわばり
- ・脈診：沈・細
- ・舌診：やや紅、厚白苔、舌下静脈怒張＋
- ・腹診：胸脇苦満、胸肋角狭

弁証：血虚、気滞瘀血

治法：補血、理気調血

【経過】

女神散を処方。2週後再診時には眠れるようになった。舌所見は紅、白苔、舌下静脈怒張なし。X年4月、入眠良好となり、中途覚醒もなくなった。

【考察】

出産歴に加えて二度の流産歴があり、血虚・瘀血の関与が強く示唆された。不眠に関しては、気滞瘀血に加え、上焦の鬱熱もあると考えた。近医産婦人科からすでに加味逍遙散が処方されていたため、上記の方意を強化するために女神散を追加処方した。

女神散の構成生薬のうち、香附子は肝の気滞に作用し、かつ活血作用により川芎、当帰などの作用を増強する。檳榔は理気作用が強く、上逆した気を下降することで気滞を治療する。

本方は温薬と涼薬の双方を含み、桂枝は温性で経脈を通じさせ、黄連・オウゴンは清熱作用によって上部の鬱熱を冷ます。特に黄連は心に帰経し、心熱を冷ますことによりイライラ・のぼせなどの症状を改善する。さらに、人參・白朮・甘草により脾気を補い気血を生成することで、虚実の両側面に対応することができる。

【結語】

今回、血虚・瘀血に対して女神散を内服薬に追加することにより、速やかな症状改善をみることができた。